

## 第46回 通常総会 会長挨拶

本日、社団法人日本陸用内燃機関協会の第46回通常総会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

先ずは、3月11日の東日本大震災により被災されました多くの方々、被害にあわれた企業、更に復興に向け苦勞されている皆さまに、陸内協を代表し、ここに心からお見舞いを申し上げます。

また、このことに鑑み、協会として被災地に100万円の義援金を送らせていただくことを、理事会に提案させていただいたところ、全理事の皆さまのご賛同を頂き、4月18日に日本赤十字社を通じて寄付させていただきました。

ここに全会員の皆様にご報告するとともに、こころから御礼を申し上げる次第です。

経済情勢に目を向けてみますと、100年に一度といわれたリーマンショックの後、2009年を底とし、昨年は、欧米の緩やかな景気回復と、中国を初めとする新興国での力強い成長により我が国の経済は回復の軌道に乗りかけた2年目の矢先、今回の大震災は、自動車、電機をはじめとする日本のすべての産業のサプライチェーンを寸断してしまいました。われわれ陸内協 会員会社およびその関係会社も多くの影響を受けました。

日本企業は、今後、サプライチェーンの復旧と東日本での夏期における電力使用制限の中、これまでに経験したことのない険しい復興の道りを歩むことになります。

しかしながら、上半期においては寸断されたサプライチェーンの復旧でフル生産まで、回復に時間を要することが予想されるものの、下半期においては、被災地における発電機需要や、復興に向けた建産機需要など、われわれ陸内協 会員各社が震災復興において重要な責任を果たすことが期待されております。

被災された東日本地域の復興に必ず貢献できますよう、改めて会員各位のご協力をお願い申し上げますとともに、困難な状況下、復興に向けた皆様の迅速なる行動と昼夜を分かたぬ復興努力に心より敬意を表します。

このような状況の下、当協会が集計しております生産実績統計によりますと、平成22年度の生産は、ディーゼルエンジンが、約137万台（前年度比163%）、金額3304億円（前年度比163%）、ガソリンエンジンが、

約467万台（前年度比124%）、金額970億円（前年度比133%）であります。

輸出は、ディーゼルエンジンが、約76万台（前年度比190%）、ガソリンエンジンが、約272万台（前年度比143%）となっております。全体として、ディーゼルエンジンを中心に生産、輸出共、前年を大きく上回っており、景気の回復を物語っております。

また、日米欧で今年から実施されている、米国中間4次規制、欧州の3次B規制、日本の2011年規制などの排ガス規制は、その対応技術やコストに対し、大きなインパクトがエンジンメーカーのみならず、機械産業メーカーにも及ぼしてきております。また逆に、日本のエンジン業界が、この危機を乗り切り、その技術力で世界のリーダーシップを確立するチャンスでもあります。

バイオ燃料への対応やハイブリッド技術の採用、バッテリー技術の進化など、エネルギーを如何に効率的に使い、環境への影響を最小限に抑える技術力が求められております。今後どのようなエネルギー源を使うかについても多くの議論が行われると思います。例えば電気自動車やプラグインハイブリッドへの移行のスピードは緩やかなものになる可能性もあります。私は多様なエネルギー源を利用した低燃費でクリーンなエンジン（内燃機関）の評価がより高まるのではと考えております。会員各社が、こうした問題に対し、今後も積極的に取り組むとともに、地球環境の改善を目指し、時代の要請に応じた技術革新や事業運営を継続していくことが社会貢献につながるものと信じますとともに、エンジン事業に携わる者の誇りであると思います。

今年は、当協会も国の公益法人改革を受け、平成23年度中に「新公益法人」に移行する予定であり、本総会で定款変更案をはじめ変更申請に必要な案件の承認をお願いする予定です。新しい法人としての一層の飛躍を目指し、会員各社のご支援のもと、今まで以上に協会活動を積極的に推進し、業界の発展を図って参りたいと考えます。

陸内協はここ数年継続して「環境問題対応」と「グローバル化対応」を重点方針として掲げ、昨年度は、それに「協会活動のPR強化」を加えて活動を展開してまいりました。

こうした昨年度までの活動を顧みて、本年度は、2011年度から始まった21世紀の2番目の10年を展望し、《3つの新時代》すなわち、「環境対応の新時代」、「グローバル化の新時代」、「協会の組織・運営の新時代」への対応を

キーワードに掲げ、平成23年度の具体的な活動を展開しています。

当協会といたしましても、関係各社のご支援のもと、今まで以上に協会活動を積極的に推進し、今回の東日本大震災を乗り越え、業界の発展を図って参りたいと考えます。

最後に協会メンバー各社、皆さまのいっそうのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、第46回の総会の挨拶とさせていただきます。